



# 白鳳点描

## 明るい笑顔が輝く学校に～本物の体験をもとに～

校長 川本 幸則

木々の青葉が美しく青空に映える季節となりました。春に芽を出した若葉が成長して広がり美しく輝いています。窓から入ってくる風も心地よく、過ごしやすい季節です。

しかしながら、最近、日差しが強く、これまで汗をかかずに過ごしてきた身体が夏の準備に間に合わず、体調を崩すこともあります。感染症の対策とともに、熱中症予防にも気をつけていきましょう。

昨年度にいろいろな機会で「本物の体験をしてほしい」と伝えてきました。これまで、感染症対策で行動制限が求められてきましたが、感染症との付き合い方が明らかになってきて、コロナ前の生活に戻りつつあります。さまざまな体験もできるようになってきました。

学習面で言えば、教科書や資料集などの書物に加え、一人一台のタブレットによりネット上の情報も触れることができるようになりましたが、やはり直接本物に触れることにはかきません。出前授業や校外学習なども本物の体験となりますが、ご家庭におかれても様々な機会をつくっていただくと成長の糧になります。



人と人との交流も、感染症対策として、同じ空間での直接的なコミュニケーションがとりづらくなっていましたが、次第に緩和されてきています。学校でも制限を設けていたグループでの学習なども再開しています。やはり、顔を見て話をしてコミュニケーションをとることも、成長期の子どもたちにとっては、必要な本物の体験です。言葉だけでなく、相手の表情や言い方、周りの状況などを含めて判断し、適切な対応ができる力を培ってほしいのです。

小学生から中学生の義務教育の期間で、子どもの生活する社会は広がっていきます。その後も人生の節目で変わっていきますが、心の成長と共に変わっていくこの時期は、大人になったときに、変化の激しい社会で自分を生かしながら生きていくためには、重要な時期となります。失敗や間違いも含め、仲間と一緒に生活する中での直接的なコミュニケーションによる本物の体験をもとに、経験しながら成長してほしいと願います。

これからは、コロナ前に戻るのではなく、コロナと共に生きる時代と言われます。一人一人がその子らしく、その子なりの成長で健やかに育ってほしいと思います。